

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	中嶋 幸生
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	准教授
在籍年	6 年

教育の責任

世界は今、さまざまな困難や課題を前にして先行きの見えない茫漠とした不安が蔓延し、行き詰まりを見せている。このような時だからこそ「学生に力を与える教育」が求められている。

本学部開学 3 年以上前となる 2017 年 1 月 8 日から、学園の要請を受け、主に 3 教科の科目責任者としてシラバスの作成を中心として着手し、2025 年の今日に至るまで、教育の土台作りに徹してきた。土台作りは地味であり、人目を惹く華やかさはない。実際のところ、多大なる犠牲も伴ってきた。その労作業は最大に重要であり、社会的な責任も大きくのしかかる。ただ、後には大きな建設や桜梅桃李の学生の能力も開花させることが出来ると固く信じている。

また、教育の責任として、一人一人の学生の希望や将来の成功、幸福の実現のために地道に注力し、個々の気持ちを大切にすることが重要と考えている。「一人を大切にする」人間主義の源流を忘れて、濁流と化してはならない。そのための責任として、教員の学生に対する「心こそ大事」であり、「教員こそ最大の学習環境」であることを徹底している。

教育の理念

社会において「青年は未来の希望」である。大学においては学生こそ目的であり、世間的体裁のために手段化してはならない。教育現場においても、暴力、差別、排斥、抑圧、対立、虚言やデマ、陰湿な誹謗中傷、策謀など、学生を巻き込んだ悲劇は残念ながら今も続いている。難事ではあるが、教育の力をもって、「学生が主役の大学」へと再構築する方途を探る。現在抱えている学生と教員間の軋轢などの諸問題も「学生が主役の大学」を基とした際に、解決の糸口が見えてくるはずである。逆説的ではあるが、「教員にとって真の教師は学生である」という謙虚な姿勢で教育に取り組むべきである。

総じて、教育において技術や知識の伝達は大切な一部ではあるが、春の陽光のように暖かい心こそ、学生が教員に対して根本的に求めるものではないだろうか。そのために、「人権の柱」、「心の砦（とりで）」としての使命を自覚している。

教育の方法・方針

一般的に講義では、分断された専門領域の枝葉末節から 1 つ 1 つの学問を理解し、知識を集積することが中心になっているが、知識を智慧として社会に反映させゆくことが、高学年においては重要な教育課題になってくことは言うまでもない。そのためには、各学問を体系的に集約させて理解することが必要となる。本目標の実現のために、本学部 1 期生から国家試験対策勉強会(2023-2024：6 年次 3 コマ×30 回)を実施し、国家試験を合格した後も見据えて、知識を定着し、智慧へと昇華させ、社会において実践へと移行させることを目的として、学生から積極的に意見を発現することを促したアウトプット型の勉強会を実施している。

また、卒業、および国家試験の取得をしさえすれば大学の役割は終わりではなく、勤務した

後の教育効果を確認するため、実社会での経験がある教員による、対面やビデオ電話などを使用した定期的な意見聴取やフォローアップ、サポート、アドバイスなども実施している。

作成した教材としては、病気などで欠席した学生や再受講希望学生のために作成した VOD 教材は計 142 本であり、視聴回数は 2314 回(2025/2/3 時点)である。国家試験の模擬試験（予想問題）については、臨床系分野すべてを対象として 170 問のオリジナル問題を作成した（今年度から実施）。以上を集約すると、ゼミでは「一人を大切に作る心」、講義では「誰も置き去りにしない心」を大切にしている。

教育の成果

科目責任者を務めている科目としては、①獣医運動器病学(2021-2024：4 年次 16 コマ)、②分子細胞腫瘍学(2023-2024：5 年次 8 コマ)、③修復再生医療科学(2023-2024：6 年次 8 コマ)である。科目責任者 1 名の評価として（分担科目は含めない）、履修者数はのべ 953 名、アンケート回答者数のべ 534 名（回答率 56.0%）であり、授業満足度は 94.4%、好意的コメント数は 145 を超えている。これらは私の宝物として、ありのままの喜びと共に心の中に留めている。

上記に記載の国家試験対策勉強会の成果としては、直近のデータとして 2024 年度の国試出題率は全 330 問中、およそ 114 問が勉強会や模試で実施した内容から出題されていた(34.5%)。現在のところ、主指導教員として指導した学生の国家試験合格率は、受験者 5 名中 5 名が合格しており、合格率は 100%である。

研究室での学生対応としては、主指導教員として定員 3 名に対して、33 名(2023 年)、35 名(2024 年)の学生から要望があった。また、卒業論文作成の結果の集大成として、一本の特許出願を完了している。しかしながら、いわゆるエリートの育成を目的としているわけではない。病に苦しんでいる学生、虐げられ学習についていけない学生にこそ、「誰も置き去りにしない」教育を目指して、焦点を当てるべきだと考えている。具体的には、精神的に追い込まれ、心に傷をおった学生 2 名に対して、ゼミに受け入れ、本来の学業に復帰させるためのサポートをしている。病気に罹患した学生の苦悩を理解したサポートも積極的に行っている。

今後の目標

上記の教育活動によって、文証・理証・現証となって、実利を伴い価値創造を可能ならしめている。また、いかなる状況の中でも、「学生に寄り添う心」や「学生と一緒に成長しようという心」を忘れなければ、未来永劫にわたって、自然と具体的な教育目標は定まるはずである。今後将来においても、未来を担う瑞々しい力をもった学生との出会いを通して、人間的な広がりや成長と理解を助けてくれる拠り所となる模範となるべく努めたい。

一方で、社会問題となっており、教育現場での権力による蹂躪を抑止することを忘れずに、清浄な学習環境を守るように、精神的基盤となるべく貢献したい。如何なる職位を有する教職員も学生も、同じ人間であるという一点は共通であり、その意味で平等・対等であるべきである。諸々のハラスメントは人権の虐殺であり、希望や才能の芽を潰すことは絶対悪であることは明確である。精神疾患や自殺に追い込むようなことがあれば、核兵器を使用して「心の破壊」をしているのと同義であり、決して起こらないよう未来の芽を守り温め続ける。

根拠資料

授業アンケート（科目責任者として全回を担当）：獣医運動器病学(2021-2024)、分子細胞腫瘍学(2023-2024)、修復再生医療科学(2023-2024)、国試対策勉強会アンケート(2023-2024)